

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：一般検査研究班 提出日：令和 3 年 7 月 11 日 報告者：長嶋 和子

行事種別	研究会	行事番号	210000283
開催日	令和 3 年 6 月 12 日 (土) ~ 25 日 (金)		
時間	開始	00 時 00 分	終了 23 時 59 分
場所	オンデマンド配信 (Web 録画)		
テーマ	過去の学会発表から学ぼう、炎症性腸疾患のバイオマーカーを知ろう		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司会	藤田医科大学病院 長嶋 和子		
講師	<p>1.潰瘍性大腸炎治療薬メサラジンによるブドウ糖試験紙異常発色機序の検討  <span style="float: right;">公立西知多総合病院 服部 聡</span></p> <p>2.尿沈渣検査所見が膀胱破裂疑いを導いた一例  <span style="float: right;">公立西知多総合病院 加藤節子</span></p> <p>3.尿沈渣中に小集塊状の出現様式を示した IgA-κ型多発性骨髄腫の一例  <span style="float: right;">藤田医科大学病院 長嶋和子</span></p> <p>4.関節液検査における固定方法とセルブロック作成の有用性について  <span style="float: right;">JA 愛知厚生連稲沢厚生病院 蜂須賀大輔</span></p> <p>5.腎炎を伴う IgA 血管炎の 1 症例～腎生検後に尿沈渣所見が悪化した 1 例～  <span style="float: right;">社会医療法人宏潤会大同病院 竹本明里</span></p> <p>6.尿沈渣中にコンタミネーションが原因でダニ、原虫類を認めた 2 症例  <span style="float: right;">藤田医科大学病院 蛭川澄玲</span></p> <p>7.尿中有形成分分析装置 UF-5000 を用いた尿路感染症スクリーニングの有用性評価  <span style="float: right;">小牧市民病院 前田佳成</span></p> <p>8.消化管疾患における便中マーカーの役割  <span style="float: right;">栄研化学株式会社 志賀常雄</span></p>		

<p>内容</p>	<p>前半は 2020 年度に日臨技、愛臨技で学会発表された演題を再聴講して貰う企画でした。7 講演のうち 4 講演（講演①②③⑤⑥）が日常業務において遭遇した事象についての発表でした。自施設において遭遇することが起こった場合に、今回の研究会を思い出し臨床側に報告できるようにしたいという感想をいただき、症例報告を通して多くの施設の人と情報を共有できたと感じました。また、臨床や他部門との連携の大切さを感じたという感想もいただきました。2 講演（講演④⑦）は研究的内容で、参加者の方からの質問は講演④に偏っていました。学会時には質疑応答がなかったので、研究会を通して疑問が解消できたのであれば開催した意義を感じます。</p> <p>後半の便中マーカー「カルプロテクチン」は近年保険収載された項目で、炎症性腸疾患のマーカーです。炎症性腸疾患の罹患率・有病率は年々増加傾向で、自施設で測定している病院はまだ少数と思われますが今後活用が大いに期待される炎症マーカーです。便検査の勉強会・講演会は少なく、時代に先駆けての講演で、多くの参加者に興味を持って聴講していただけたと思いますが、アンケート調査時に行った理解度テストにおける正解率が悪かったことが若干気になります。正解答は研究班 HP に掲載予定であり、メインテーマのカルプロテクチンは回答できているので視聴自体には問題はなかったと思いますが、現地開催に比し参加者の方がどのような環境で視聴されているかが分からない点などは運営サイドとしてはやはり不安な面があります。</p> <p>しかしその一方で、聞き逃しを再度確認できる点などはオンデマンドのメリットであり、感想にもこの形式での配信を望む声がありました。講演の内容に合わせ配信方法を考えるなどの工夫が必要であると感じます。</p>
<p>参加者</p>	<p>総数：114 名（会員 84 名、県外会員 29 名、非会員 1 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）</p>
<p>共催、後援など</p>	<p>なし</p>